

主 題：主があなたに求められること 1

聖書箇所：テサロニケ人への手紙第一 5章12－15節

私たちはこれまで神からすばらしい祝福をいただいた者として、その感謝をどのように現わしていくのかということを見て来ました。パウロが言ったことは「私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。」と、つまり、キリストは私のいのちそのものであると告白しています。それゆえに、そのような願いをもった者たちが集まるところには、当然、主にある一致、主にある和が存在するはずですが。残念ながら、コリントの教会はそうではありませんでした。いろんな分派があったのです。パウロの心を痛めただけでなく、主ご自身の心を痛めるのです。そのようなことがあってはならないとみことばは教えました。

では、いったいどうすればいいのか？どうすれば私たちはこの教会にあって、神が喜ばれるような環境を築き上げていくことができるのか？実は、パウロはこのテサロニケ人への手紙第一の中でそのことを教えるのです。彼は私たちにそうすればいいのかということを見せてくれます。そのことを見ていくのですが、もう一度、皆さんに思い出していただきたいことがあります。私たちクリスチャンは主なる神の偉大さを人々に伝えるための神の道具であると、そのことを私たちは繰り返して学んで来ています。あなたはあなたの神のすばらしさを世に伝えるために神が選んでくださった道具であると。だから、社会であっても学校でも家庭でも、また、教会であっても、まず、自分自身の言動が主に喜ばれ、そして、人の模範となることが重要です。みなそれぞれに信仰者としてこのように生きていくのだという模範を人々の前に示していくのです。でも、ある人は「いや、私はまだ信仰が浅いから…」と言われるかもしれません。また、「私の信仰は弱いから…」と言われるかもしれません。でも、少なくとも、皆さんに覚えていただきたいことは、信仰の強さ弱さに関係なく、神が皆さんひとり一人に望んでおられること、それは、あなたはあなたのすばらしい神の偉大さを世に証していくという責任をいただいているということです。

だから、私たちが考えなければいけないことは、人々に神の偉大さを伝えるためには、まず、自分自身がその偉大さに感嘆していることです。人々は見えて分かります。あなたがどのように生きるかによって、「この人が信じている神はよく分からないけれど、少なくとも、この人をこのように興奮に至らしめている」と言うでしょう。それはその信仰者が喜んでいるからです。人々に主なる神の愛を伝えるためには、まず、あなた自身がその愛に心から感謝していることが必要です。感謝していなければその愛を現わすことなどないでしょう。人々に主なる神の救いを伝えるためには、まず、あなた自身が救いを喜び感謝していることが必要です。もし、あなたが救われたことを本当に喜んでいるなら、その救いのすばらしさを、救われた喜びをあなたはご自分の生き様をもって示し続けていくでしょう。救われるってこんなにすばらしいことだ、私の神はこんなに偉大な方だと。そのことに感動しているなら、そのことに喜んでいるなら、当然、それは言動をもって明らかにされていくでしょう。

実は、これはあなたにだけ神が命じておられることではないし、実際に、旧約聖書を見るとそのように生きた人たちがいます。一つの例をご紹介します。それはダビデです。詩篇103：2のみことばを見てください。「わがたましいよ。【主】をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」とあります。この「ほめたたえる」とは「ひざをかがめて主なる神を崇める、崇拝する」ということです。そのことをダビデ自身が自分の心に命じるのです。主の前にひざまづいて心からこの方を崇めよと。彼は「忘れるな。」と言います。「主の良くしてくださったことを」、これは「主なる神による恩恵」です。ですから、ダビデはここで「すべての主の恩恵を忘れることがあってはならない。わがたましいよ。」と言うのです。ですから、ダビデは主が与えてくださった祝福を一つずつ覚えて、それを見て主に心からなる感謝をささげるのです。主の御名を心から誉め称えていたのです。彼は神が与えてくださったその祝福を見るときに、どの祝福も自分にふさわしくないと感じていました。こんな罪に汚れた私が、こんなにどうしようもない私が、神に逆らっている私が、このような祝福をいただいているのだろうか？と。それを思う度に彼は神を心から誉め称え続け、感謝をささげ続けたのです。

この詩篇103篇の1－5節を見ると、ダビデ自身が神の恩恵、祝福を覚えて神を称えている様子が記されています。彼自身が神に感謝をささげているのです。そして、6－18節では、すべての主を畏れる人に対して彼は「いっしょに主を誉め称えよう！」と呼びかけます。19－22節では、すべての被造物に対して神を称えようと導いていこうとします。ダビデはこの神こそすべての被造物によって誉め称えられるに値するお方であると知っていました。それを実践するために、まず、自分から始めてい

ます。彼は自分自身が神のすばらしさを称える者として生きること、そのことを選択してそのように彼は生きたのです。このように考えたときに、ダビデだけでなく、主の恵みによって救いに与ったあなたにも同じことが言えるのです。まず、あなた自身がこの神の恩恵に対して、神があなたに与えてくださった祝福に対して、それを喜ぶ者として、それを感謝する者として生きることです。そして、あなたがそのように主のみこころに沿って生きていくな、あなたは人々の前に「私たち信仰者はこのように生きていくのだ」という模範を示すことになります。それが主が望んでおられることです。私たちが何度も学んで来たことです。もう一度思い出してください。「私ではなくて、私の隣にいる人が、あの人がこういう生き方をすればいいのだ」ということを言っているのではありません。神は救いに与ったあなたに対してこのメッセージを与えているのです。あなた自身が主のすばらしさを証する者として生き始めなさい、主の恵みをいただいたあなた自身がそのことを喜び感謝しながら生き始めていきなさい。そして、周りの人々にあなたの神がどんなにすばらしいお方であるかを証続けていきなさいと、そのことを命じておられるのです。

今日のテキスト、1テサロニケ5章に戻ってください。パウロは神に対するそのような感謝をもって信仰者であるあなたに対して、あなたが教会においてどのように歩んでいくべきなのか、教会における責任を12節から15節で教えています。そして、16節から22節には、救われた者として、主の恵みを感謝している者として、主に対してどのような責任をあなた自身が負っているのか、そのことが記されています。

今朝は、教会においてあなたはどのような責任を負っているのか、特に、人間関係について見ていきます。

A. 教会における責任 12－15節

1. 教会のリーダーたちとの関係 12－13節

12－13節「兄弟たちよ。あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあってあなたがたを指導し、訓戒している人々を認めなさい。:13 その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。お互いの間に平和を保ちなさい。」、気付かれたように、ここには信仰者であるあなたが教会の霊的リーダーたちとどのような関係を持つべきなのかを教えています。三つの動詞に注目してください。一つ目は「認めなさい」、二つ目は「払いなさい」、そして、三つ目は「平和を保ちなさい」です。これがあなたが教会のリーダーたちに対して覚えなければならないことだとパウロは言うのです。

1) 認めなさい 12節

「認める」ということばは「知る」とも訳せます。ですから、最初にパウロが言うことは、「教会の愛する兄弟姉妹たちよ。あなたたちのリーダーたちのことを知りなさい」です。なぜなら、彼らは次のような働きをしている人々だからと言って、リーダーたちが為しているわざについて三つのことを教えています。

(1)「**労苦し**」：勤勉に働いている、骨を折ってくたくたになるまで働いている、もう疲れ果てた状態のことです。そのような人たちは確かにこの世の中にたくさんいます。しかし、敢えてパウロがここで言うことは「あなたがたの間で」です。教会の中にあって、その霊的リーダーたちはあなたたちのために一生懸命労しているから、働いているから、そのことを知りなさいと言うのです。

(2)「**指導し**」：忠告する、たしなめる、注意をする、警告する、諭すという意味を持ったことばです。リーダーたちは教会にあって兄弟姉妹たちを諭している、彼らをたしなめている、彼らが間違った方向にいきかけた時に、正しい方向に歩み続けて行くように諭していると言うのです。同じように、この12節のことばで注意して見て頂きたいのは、「主にあってあなたがたを指導し」という箇所です。彼らの思い通りにこのような働きを為している人のことではありません。リーダーたちは「主にあって」この働きを為していると言います。「主にあって」とは、そのリーダーシップの範囲や性質を表わしているのです。リーダーたちは神から託されたその群れの中でリーダーシップを発揮するのです。それ以外の所に行ってリーダーシップを発揮するのではないのです。しかも、このリーダーシップというのは神から託されたものです。

◎リーダーたちの働きについて

a) **目的**＝群れの中にいる人々、神が託してくださったその群れの人たちをしっかりと霊的に訓練して彼らの霊的成長のために労することです。みことばによって人々の信仰が成長するからです。

b) **動機**＝彼らに神から託された務めがあり、彼らはそのことを確信しています。ご存じのように、牧会者や教師たちの一番大きな働きは神のおことばを伝えることです。リーダーたちの働きは聖書が教えています。みことばをもってしっかりと羊を養っていくことです。その務めを神が与えてくださったことを知って、それがリーダーたちの働きの動機です。

c) **道具**＝彼らが用いる道具は神のおことばです。みことばによって人々を訓練し、みことばによって

人々を励まし養っていかうとします。ときには、今見ているように、彼らに諭しを与える必要があります。彼らに警告を与える必要があります。それは彼らがみことばに反する行ないをしたときです。

(3) 「訓戒し」＝「監督をする、治める」という意味です。

ですから、パウロは「あなたたちのリーダーのことを知りなさい」と言います。今見て来たように、リーダーたちはどのような働きをする者なのか？その人たちは神から託されたその群れをしっかりと監督する、治めるのです。そして、彼らは神が召してくださったこの働きのために一生懸命疲れ果てるまで労します。その働きを通して、群れのひとり一人の信仰が成長していくように、そのためにみことばに基づいてその働きを為していくのです。「こういうリーダーたちのことを知りなさい」と、パウロは勧めるのです。

2) 払う 13節

13節「その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。」とあります。「払いなさい」とは「そのように見做しなさい、そのように思いなさい」という意味です。彼らの働きを知って、こういう思いを抱くように、このように彼らを見做すようにと言うのです。そのことについてここに二つのことが記されています。

- ・「愛をもって」
- ・「深い尊敬をもって」

彼らのことを愛して深い尊敬を払いなさいと言います。このことばも面白いことばで「これまで以上に、今以上に、限度を越えて、あらん限り」という意味がこの副詞の中に含まれています。ですから、パウロはこの13節で「その務めのゆえに、彼らに愛をもってこれまで以上の尊敬を払っていきなさい。」と言うのです。

同じパウロはⅠテモテ5：17でこのよう教えます。「よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。」と。ですから、まず、パウロは彼らのことを知りなさいと言いました。その次に、彼らに対して愛をもって深い尊敬を払っていきなさいと教えます。

3) 平和を保ちなさい 13節

教会の兄弟姉妹たちにパウロが言うことは、あなたがたとあなたがたのリーダーとの関係が平和の関係であるようにということです。みことばをいくつか見ましょう。詩篇34：14「悪を離れ、善を行え。平和を求め、それを追い求めよ。」、マルコ9：50「塩は、ききめのあるものです。しかし、もし塩に塩けがなくなったら、何によって塩けを取り戻せましょう。あなたがたは、自分自身のうちに塩けを保ちなさい。そして、互いに和合して暮らしなさい。」、Ⅱコリント13：11「終わりに、兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。」

ヘブル13：17を見てください。指導者たちとの関係について、ヘブル書の著者は私たちにこのように教えます。「あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。」と。

(1) 指導者に関して会衆の責任として与えられた二つの命令

- a) 「言うことを聞く」
- b) 「服従」

どちらも「従う」ということです。「言うことを聞く」とは「言うことに従っていく」ということであり、「服従」とは「その命令や指導に従っていく」ということです。なぜそうするのでしょうか？

(2) その理由

(a) 神から与えられたその責任のゆえに

i) 「この人々は神に弁明する者であって、」

つまり、このような指導者は神の前に立つ時にその与えられた務めをどれだけ忠実に果たしたかどうかを神から問われるのです。もちろん、私たち信仰者ひとり一人は神の前に立って、どのような歩みをして来たのかと神から審判を頂きます。しかし、このヘブル書の著者が言うことは「リーダーたちには特別な務めが与えられている。その群れを導いていく者たちである。」です。だから、聖書の中にはどういう人をリーダーとして立てるのか、その条件が厳しく詳しく記されています。間違ったリーダーを立ててはならないということです。そして、そのリーダーたちは神の前に立つ時に、リーダーとして相應しい働きをして来たのかどうかと、そのことが神から問われるのです。だから、あなたたちはそのリーダーたちを支えていきなさい、励ましていきなさいと言うのです。そのことは後に出て来ます。

なぜ、リーダーたちの言うことをそのまま受け入れてそれに従っていくのか？そのリーダーシップに

従っていく理由は、彼らは神の前でその働きの弁明をする者たちだから、神が託したこの働きを忠実に
行なったかどうか、そのことが神から問われるという責任を負っている者たちだからです。ゆえに、あ
なたたちはその働きを支えていきなさいと言うのです。

ii) 「あなたがたのたましいのために見張りをしている」

もう一つの理由としてこの著者は「あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。」と言いま
す。つまり、彼らの責任は人々の信仰の成長ということです。教会のリーダーたち、指導者たちというの
は、群れ全体の監督者です。群れが成長していくように、そして、それぞれが賜物を用いて働くために、主
に仕えていくために真理を教え、そして、間違った教えが入って来ないように群れを守り、そして、主
のみこころに沿って群れを導いていく、このような務めを頂いていると言います。リーダーたちは神か
らこのような大きな責任が与えられている、それは「たましいの見張りをする事」であると言います。
神が託してくださったその群れが本当に神にあって成長していくようにと言います。

だから、パウロ自身、群れの成長を非常に喜んでいることがⅠテサロニケ3：7-9にパウロ自身に
よって記されています。「Ⅰ7 このようなわけで、兄弟たち。私たちはあらゆる苦しみと患難のうちにも、あな
たがたのことで、その信仰によって、慰めを受けました。Ⅰ8 あなたがたが主にあって堅く立っていてくれるな
ら、私たちは今、生きがいがあります。Ⅰ9 私たちの神の御前にあって、あなたがたのことで喜んでいる私たちの
このすべての喜びのために、神にどんな感謝をささげたらよいでしょう。」と。テサロニケの教会の人々が
大変な患難、苦しみの中にあっても、しっかりと主を見て従っているその様子を見てパウロは喜んでいま
す。テサロニケのクリスチャンたちは本当に信仰的に大人でした。すばらしい信仰者だったからです。
そのことをパウロは喜んでいるのです。

ヨハネもヨハネの手紙第3の4節でこのように言っています。「私の子どもたちが真理に歩んでいること
を聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。」と。ヨハネも兄弟姉妹たちが本当に主のみことばに
従って生きている様子を見て喜んでいたので。どこの教会であろうと、どこの国であろうと、みなに
共通した喜びは、神が託してくださったその群れが本当にみことばにあって成長しているのを見ること
です。それ以上の喜びはありません。指導者たち、リーダーたちはそのような務めを与えられているの
です。だから、ヘブル書で著者はその働きの妨げにならないようにと教会の兄弟姉妹たちに警告を与え
るのです。もう一度ヘブル書13：17を見てください。「ですから、この人たちが喜んでそのことをし、
嘆いてすることにならないようにしなさい。」と書かれています。「嘆く」とは「うめく、嘆息」です。嘆
いてため息をつくようなことにならないようにあなたがたは応援していきなさいと、著者は言うのです。

イエス・キリストを信じている者たちの集まりはある一つのことだけを願っています。それは神のみ
こころを求めそれに従っていくということです。個人としても群れとしてもそうです。みこころはいっ
たい何なのか？神がお喜びになることは何か？を考えてそれを実践しようとするのです。しかし、残念
ながら、人間の内には罪があって、そのように神に従順に従っていくとか、リーダーに従って行くとい
うことに対して、そのようなことはしたくないという不従順な思いが出て来ます。悲しいことです。私
たちの内に罪がなければそのようなことにならないのですが、罪があるゆえに「いやー、そのような歩
みよりこっちの方がいいのではないか、もうリーダーに従っていくなんていやだ！」という思いを抱い
てしまったりします。

皆さんに一つの例を思い出して頂きたいのですが、モーセの兄弟たちのことです。モーセにはミリヤ
ムとアロンという兄弟がいました。この二人が自分たちの不満を神の前に申し述べます。「どうしてモ
ーセばかりが…、モーセだけがリーダーなのか？」とモーセに対して嫉妬心を抱くのです。これは民数記
12章に出てくる記事です。彼らは神の前に不満を言います。民数記12：2「彼らは言った。『【主】
はただモーセとだけ話されたのでしょうか。私たちとも話されたのではないのでしょうか。』【主】はこれを聞かれ
た。」、そして、主はモーセとアロンとミリヤムの三人に会見の天幕のところに来なさいと言います。神
が彼らと話をされます。会見の天幕の入り口に立ってアロンとミリヤムを呼ばれます。二人だけが主の
前に立つのです。6-8節「仰せられた。『わたしのことばを聞け。もし、あなたがたのひとりが預言者である
なら、【主】であるわたしは、幻の中でその者にわたしを知らせ、夢の中でその者に語る。Ⅰ7 しかしわたしのし
もべモーセとはそうではない。彼はわたしの全家を通じて忠実な者である。Ⅰ8 彼とは、わたしは口と口とで語り、
明らかに語って、なぞで話すことはしない。彼はまた、【主】の姿を仰ぎ見ている。なぜ、あなたがたは、わたし
のしもべモーセを恐れずに非難するのか。』、その後、ミリヤムがらい病にかかった様子が記されています。
アロンはモーセの前に悔い改めるのです。アロンはこのように言います。11-12節「アロンはモーセ
に言った。『わが主よ。私たちが愚かで犯しました罪の罰をどうか、私たちに負わせないでください。Ⅰ12 どうか、
彼女を、その肉が半ば腐って母の胎から出て来る死人のようにしないでください。』とこのように赦しを求める
のです。モーセは祈り、そして、ミリヤムのらい病は癒されたことがその後記されています。

だから、神に従っていく、従順であることは大切なことです。そして、主が私たちに求めておられる

ことは、霊的なリーダーのリーダーシップに従っていきなさい、神がお立てになったから、神を愛するゆえに従っていきなさいです。先程も話したように、残念ながら、この不従順は罪がもたらすものです。ということは、「従順」は神が私たちに与えてくださるものです。エペソ5：19－21には聖霊に満たされた人の特徴が記されています。「：19 詩と賛美と霊の歌をもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。：20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。：21 キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。」、聖霊なる神が支配している人はどのような特徴を持っているか？ここに三つの特徴が記されています。一つは「常に喜んでいます。」神に賛美しています。二つ目は「神に対する感謝」があります。すべてのことを神に感謝しています。三つ目は「従順」です。喜んで従って行こうとするのです。

ですから、その群れが主を愛するゆえに主の命令に従って自分たちの霊的なリーダに喜んで従って行こうとするのです。そうなら、そのリーダーたちは益々主を恐れながら正しくその群れを導いていこうとします。ですから、パウロが言ったように、この人たちが喜んでそのことを嘆いてすることにならないようにしなさい、しっかりと従うことによって応援し、彼らが益々主の前に正しく歩んでいけるように祈りながらサポートしていきなさいということです。ですから、このヘブル書の著者は、なぜ、指導者たちに従うのか、一つ目の理由として「神から与えられたその責任のゆえに神に従いなさい」と言います。

ｂ) 自分たちへの祝福のゆえに

二つ目の理由は17節の最後に書かれていることです。「そうでないと、あなたがたの益にならないからです。」と。そのようにリーダーたちが神の前を喜びながら正しく歩んでいくならば、それが群れ全体の祝福となる、あなたの祝福になると言うのです。あなた自身が神の前に正しく歩むことによって神から祝福を頂くだけでなく、その群れ全体が祝されると言うのです。だから、あなた自身がどのように歩んでいくかが非常に大切なのです。旧約聖書のダビデも言っていました。「まず自分が神を心から誉め称える者になりたい。」と。そして、その上で人々に彼らの働きに神への称賛に加わるように言いました。ヘブル書の著者も言うのです。「あなたがたのようになりたがうように正しい態度をもって従っていくなら、あなたが祝されるし、その祝福は群れ全体に及んでいく。」と。だから、ひとり一人が神の前を正しく生きることが大切なのです。

Ⅰテサロニケ5章に戻って、パウロはこうしてあなたが教会のリーダーたちにどのように関わっていくのかということをお教えました。しっかりと平和を築く者になりなさいと。

2. 教会員との関係 14－15節

そして、14－15節を見ると、今度はあなたの兄弟姉妹との関係、教会員との関係ということが出て来て、そのことに話が移っていきます。14－15節「兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。：15 だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行うよう務めなさい。」。まず、14節の初めに「兄弟たち。あなたがたに勧告します。」と言って、パウロ自身が彼らに対して説き勧めることがこの後に記されています。そこには六つの命令が出て来ます。これがあなた自身があなたの周りにいる兄弟姉妹たちに対して、どのように歩んでいくべきなのかという主ご自身からの命令です。

1) 気ままな者を戒め 14節

「気ままな者」とは「規律のない人、怠惰で仕事をしないで遊んでいる人、秩序を乱す人」のことです。群れの中にそういう人たちがいるかもしれない。みな主を見上げて主の喜ばれることを選択して歩んでいこうとする時に、そうでない歩みを人々に勧めてみたり、コリントの教会にあったように、教会の中にいろいろと分裂や分派をもたらしてしまう。もし、そのようなことがあった時には「戒めなさい」と言います。その人たちを警告しなさい、叱りなさい、たしなめなさい、諭しなさいと言うのです。これは教会のリーダーたちだけに与えられた責任ではありません。すべてのクリスチャンたちに与えられている責任です。群れの中であって、そのようにみことばに反することを勧める人たちがいる時には、彼らを戒めなさい、「あなたのやっていることは間違っている、あなたの言っていることは間違っている」と明らかにしなさいと言うのです。これがパウロが最初にここに与えた命令です。

2) 小心な者を励まし 14節

「小心」とは「落胆した、臆病、弱気である、気が弱い」ということです。だから、そういう人に対して励ましなさいと言います。彼らを慰めて元気づけて、そして、彼らが信仰者としての戦いを歩み続けて行くように彼らを励ましてあげなさいと。そのような人たちは私たちの周りにいます。自分が戦いに勝利できるかどうかよく分からない、自分は本当に信仰的に弱いと、例えば、そのような人がいた時に、その人たちを励ましてあげなさいと言うのです。しっかりと神のみことばによって「主はこのような約束をくださったから、それを信じて歩んでいくように」と彼らを励ましていくのです。

3) 弱い者を助け 14節

この「弱い」ということばはいろいろな意味で使われます。例えば、体が弱いとか…、でも、ここで使われているのは霊的な弱さのことです。信仰的に落ち込んでしまっている人がいる、どうしてあげたらいいのか？彼らを助けなさい、彼らの世話をする、彼らを支援するということです。しっかりと彼らが神のおことばに立って歩んでいけるように、みことばをもって彼らを応援して行くことです。そういう働き人は非常に大切です。私たちの周りでも信仰的に弱っている人がたくさんいると思います。教会から離れてしまっている人たちも…、もちろん、その人たちのために祈るし、そして、神が示してくださった時に、私たちは神の知恵を頂いて何とか彼らを助けようとしします。しっかりみことばに立って主を信頼して歩んでいきましょうと彼らを応援するのです。

4) すべての人に対して寛容であれ 14節

これは「寛大である、忍耐強い、我慢強い」ということです。つまり、パウロがここと言わんとしていることは「忍耐深く、すぐに感情的になって感情的な行動に至ってしまうことがないように。短気ではなく忍耐をもって行動しなさい。」ということです。同時に、主ご自身が寛容であられたように、その模範に倣って、すべての人に対して寛容であるようにと言います。

5) 悪をもって悪に報いないように気をつけて 15節

15節に「だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、」とあります。この「報い」ということばの時制を見た時に、一回でもこのようなことをしないようにとパウロが言わんとしたことが分かります。人の悪に対して悪で報いようとする、そのようなことが一回でもあってはいけないというメッセージです。だから「気をつけなさい、注意しなさい」と言います。人の悪に対していろんな酷いことを言うかもしれない、すぐに言い返してしまうかもしれない、しかし、そのようなことがないように、そのことに注意を払いなさいと言うのです。

6) お互いの間で、またすべての人に対していつも善を行うよう務めなさい 15節

この「務めなさい」という動詞は「続行する、熱心に追い求める」という意味です。ですから、パウロは最後に「あなたたちは人の悪に対して悪で報いるのではなくて、どんな人に対してもあなたは常に善を追いかけていきなさい。正しいこと、神に喜ばれることをいつも熱心に追い求めていきなさい。」と言うのです。ですから、神のメッセージは「私たちひとり一人がどんな時でも神の前に正しいことは何か？神がお喜びになることは何か？そのことを考えながらそれを実践していきなさい。」です。ガラテヤ6：10に「ですから、私たちは、機会のあるたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに善を行いましょう。」とあります。もし、私たちの群れがいつも「今のことばで少し傷付いたけれど、でも、だからと言って、何かを仕返ししようと思うのではなく、神がお喜びになることを考え、お喜びなることを口にしていこう。」とそのように考えて歩いていくな、何が起こるでしょう？あなた自身は神のすばらしさを証する神の器として用いられ続けるのです。

結論

思い出してください。私たちはこの地上にあって自分たちのやりたいことをやるために生きているのではありません。そのような人生はもう終わったのです。神によって救われた私たちは、私たちを愛して私たちを救ってくださったこの真の神がどんなに偉大な方であるかを世に証するために生きているのです。だから、パウロがこのような命令を私たちに与えたのです。あなたはこの神の偉大さを世に証するために救いに与り、今日を与えられているのです。だから、神が喜ばれることをいつも考えて、それを選択するのです。何が神が喜ばれることなのか？どういうことをこの時に発言することが神に喜ばれることなのか？もしかすると、この時には何も言わないことが神の前に正しいことかもしれない、それなら言わないことです。そのようにしていつも考えながら神がお喜びになることを選択して生きていくのです。そのことをパウロはここで教えているのです。私たち信仰者はそのようにして生きるのです。そのように私たちが生きていくな、繰り返しますが、神はあなたを使ってくれるということです。そして、あなたの周りの人々にこの聖書の教えるあなたの神がどんなにすばらしいお方であるかを明らかにしていけます。私たちはそのために生きているのです、皆さん！そのために神はこの救いを私たちにくださったのです。

私たちの思いではなくて、主のみこころが成るように。そのために、私たちは聖書的なことを考え、聖書的な行ないをすることです。いったい、何が聖書のみことばに沿ったものなのかと聖書的に物事を考えるのです。どういう選択が正しいのかと聖書的に物事を見るのです。そして、その実践を計るのです。そのようにして、教会の中で、まず、あなたがそのように生き始めなさい、そうするとあなたを通して神のみわざがなされていくからと。すごいことだと思いませんか？そうして神は私たちを使ってくれるのです。そのような人たちの集まりであることを心から期待します。そして、願わくは、私たち自

身がまずそのような人になる決心をして今日から歩いていきましょう。「主よ。あなたのみことばに従っていきたいです。その助けを与え、そして、私を用いてください。」と、主のすばらしさを証する神の道具として、この一週間、あなたが用いられるように心から願います。

《考えましょう》

1. 教会における人間関係について学びました。あなたの責任について教えてください。
2. あなたがまず模範となることを主が望んでおられるのはどうしてですか？
3. だれでも模範的な信仰者になることができるのでしょうか？
4. そのためには、どうすれば良いのでしょうか？
5. あなたは、兄弟姉妹の信仰の成長のために何をしなければならないと思いますか？